

「第三十一回庭野平和賞」贈呈式 名誉会長ご挨拶

本日は、「第三十一回庭野平和賞」の贈呈式にあたり、青柳正規文化庁長官、田中恆清日本宗教連盟理事長、ジョセフ・チェノツトウ在日ローマ大使閣下をはじめ、多くのご来賓のご臨席を賜り、あつく御礼申し上げます。

今年度の庭野平和賞を、アメリカのヒンドゥー教徒であり、「女性による世界平和イニシアティブ（GPIW）」の創設者であるディーナ・メリアム氏にお贈りできますことは、当財団にとりまして大変光栄なことでもあります。

先ほどもご紹介がありましたように、メリアム氏の活動は、大変多岐にわたります。私は、そうしたさまざまな取り組みには、一つのキーワードがあると受けとめております。それは、「バランス」ということでもあります。

メリアム氏は二〇〇二年、「GPIW」を創設されています。女性の宗教指導者による国際的な連携組織であります。男性中心の風潮が根強い中、メリアム氏は、地球規模の諸課題の解決に向け、女性の宗教的・精神的な特性を活かし、具体化していくことを目指してこられました。諸宗教間の対話・協力をはじめ、グローバルな活動の場では、常に男性と女性の「バランス」が考慮されなければならないということでもあります。

このような歩み始める大きなきっかけとなったのが、二〇〇〇年にニューヨークの国連本部で開催された「宗教者・精神的指導者による『ミレニアム世界平和サミット』」であ

ったと、メリアム氏は述懐されています。このサミットに運営責任者の一人として関わったメリアム氏は、女性宗教指導者の活躍の場が少ないことに衝撃を受けたそうです。それが「GP IW」の創設に結びついたのであります。

実は、このサミットには、私自身も参加しておりました。セッションで議長も務めております。先日、当時の記念写真を目にする機会がありました。その頃、国連事務総長を務められていたコフィ・アナン氏を中心に、五十人の諸宗教代表が写っています。一番左端にメリアム氏がいらつしやいます。私も右側の後列におります。しかし、その中で女性は、メリアム氏を含めて、わずか五人しかいません。

あれから十四年。本日、メリアム氏に庭野平和賞を贈呈させて頂くことには、感慨深いものがございます。

世の中は、男性を中心にして動いているという印象が、一般的には強いと思います。しかし、よく考えてみますと、それは思い違いかもしれません。地域社会や家庭という人間生活の最も大事な場を、日々支えているのは女性です。特に、いのちを産み、育てていく上で、女性は、決定的に重要な役割を果たしています。誰にも母がおり、その絶大な影響を受けて、個々の人格が形成され、いま一人ひとりが社会生活を営んでいるのであります。

女性は、優しさ、温かさ、思いやり、協調性、分かち合いなどの精神的な要素が豊かであります。そうした宗教的な精神にも通じる女性の特長こそが、現代の社会に最も求められているものであり、真に人を育て、平和な世界を築いていく原点と申せましょう。

このことの重要性を、メリアム氏はじめ「GP IW」に参画する方々が、一層力強く発信してくださることを期待して

やみません。

またメリアム氏は、西洋と東洋の宗教的な「バランス」ととのえる努力も続けておられます。諸宗教による会議などの場で、西洋の宗教者と、東洋の宗教者の参加者数、発言の機会を同等にするといった配慮を具体化されています。

宗教のあり方について、ある方は、「主張すべきことではなく、帰依すべきもの」とおっしゃっています。特に東洋の宗教伝統を持った方々は、深い宗教的確信があっても、それを外に向かつて強く主張するという態度をとらない傾向が見られます。

しかし、東洋の宗教伝統には、「多用性を認める寛容さ」「個人ではなく、人間と人間、個と全体の関わりを重視する精神」「人間を自然の一部ととらえ、自然との共生を目指す生き方」「際限なく大きくなる欲望の制限」など、現代の諸課題の解決につながる数々の智慧があります。

メリアム氏は、そうした東洋の宗教伝統にも精通されているからこそ、宗教における東西の「バランス」を重視しておられるのであります。

さらにメリアム氏は、途上国と先進国の経済的な「バランス」、自然環境と人間の経済活動との「バランス」などにも目を向け、それらを改善する取り組みに卓越したリーダーシップを発揮しておられます。

「バランス」ととのえるとは、言い換えるならば、一方に偏ることなく、共に生きる道を見出すということでありましょう。現実の世界で、このことを実現するには、大変な困難が伴うに違いありません。そうした道を、地道に、情熱を持って歩み続けてこられたメリアム氏を、心から称賛し、深

く敬意を表するものであります。

最後になりますが、この場をお借りして、皆さまに御礼とお願いを申し上げます。

ご承知のように、当財団の理事長を務めていた庭野欽司郎が、去る三月九日に死去致しました。皆さまから丁重なご弔意を賜りましたことに、改めてあつく御礼申し上げます。

そして、このほど、庭野欽司郎の後任として、庭野統弘が、新理事長に就任致しました。前理事長の遺志を踏まえ、またスタッフ一同が心を一つにして、当財団の使命を果たしてまいりたいと存じます。皆さまの一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

本日の贈呈式を契機として、メリアム氏の願いと行動を、より多くの人々が共有することを期待し、またメリアム氏のご健康で、これまで同様に活躍くださることを祈念して、挨拶と致します。

ありがとうございました。